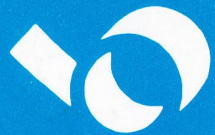


*Regular Concert*



**ODAMARA  
DANSEI**



小田原男声合唱団——第6回 定期演奏会

- と き 1977年7月2日(出PM6:30)
- と ころ 小田原市民会館大ホール



## 皆様、ようこそおいで下さいました

小田原男声合唱団 代表者 大塚正夫



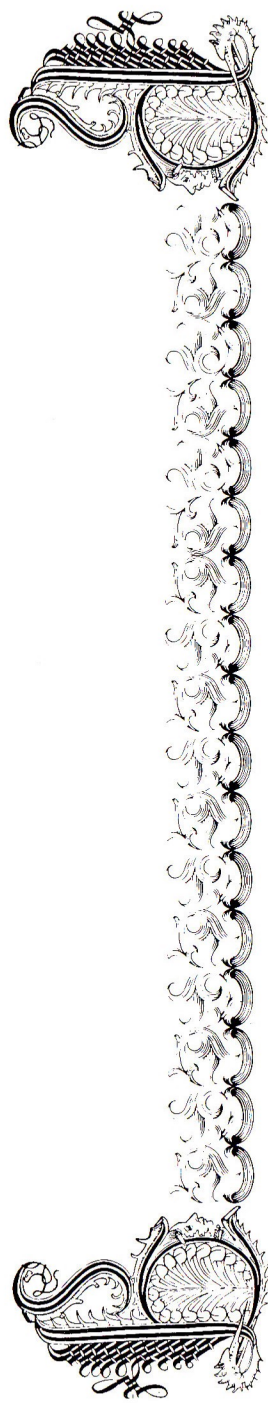
昨年は、小田原男声合唱団結成第5周年記念として、定演には、ケルビーニのレクイエムを新星日本交響楽団と共演。暮には、地元合唱団や多数の方々の協力を得てのベートーヴェン第九演奏会等、皆様の暖かいご声援のもとに、記念行事を成功裡にできましたことを厚くお礼申し上げます。

定期演奏会も第6回を数えることになりました。私達は、5年を一つの節とし、本年は1年目のつもりで、更に団の結成をはかりつつ、一生けんめい練習してまいりました。5年目までは団の創設期であり、運営面・技術面とも、いろいろ苦労を味わってまいりましたが、福永先生のアマチュア音楽に対する愛情と情熱、そして、先生のかもし出す音楽の魅力に引き付けられ、支えられながら遅々としてではありますが一歩一歩、歩んでまいりました。その間1974年に、日本男声合唱協会(JAMCA)に加盟し、名古屋(1974年)、広島(1977年)で演奏会を行い、各団との交友も深め、多くの合唱仲間を得ることができたのも、大きな喜びでありました。(来年弘前で行われます。)

さて、6年目を迎えた団が、今後年輪を重ねるにしたがって、どのように安定した実力と、特色をにじみ出すかにあるのではないかと思っております。どこの合唱団でも、どんな曲を歌い、どんなカラーを作り出すか苦慮するところではありますが、小田原男声合唱団としては、今まで主として歌い続けてきた、ロマン派を中心とした古今の名曲を更に歌い込んでいき、時には大曲にも取り組み、伝統を作っていくなかで十八番の曲を持ち、より充実した内容表現ができるようにしていきたい。そして、地元合唱団との演奏会も続けていこうと思っております。

この情報化社会のなかで、私達のまわりには、ありとあらゆるものが氾濫し、何を求めて生きていけばよいか、右往左往することの多い世の中で、私達は純粹に合唱音楽に打ち込み、美しいハーモニーを作り出す努力を生き甲斐と感じている音狂の仲間達です。しかし、皆仕事を持つ私達にとって、限られた時間内での効果的なサンブルは、どのようにしたらよいか。常に頭を痛める問題ですが、本年は合唱の基本にもどって、正確な技術の上ののって、よりよい表現をしよう、と課題を持ち昨年度までとは違った練習方法をとってみました。でも幾つかのお聞き苦しい点があると思いますが、精一杯歌い、その成果を試してみたいと思っております。

尚、本日は司会に後藤美代子さんをお願いし、ステージを盛り上げていただくことになりました。今宵の演奏会が、ただ回を重ねるのではなく、願わくば次のステップの出発点としたいと思っております。何卒厳しいご批判と、暖かいご支援をお願いいたします。



## ある日、そして今日

小田原男声合唱団 常任指揮者 福永陽一郎



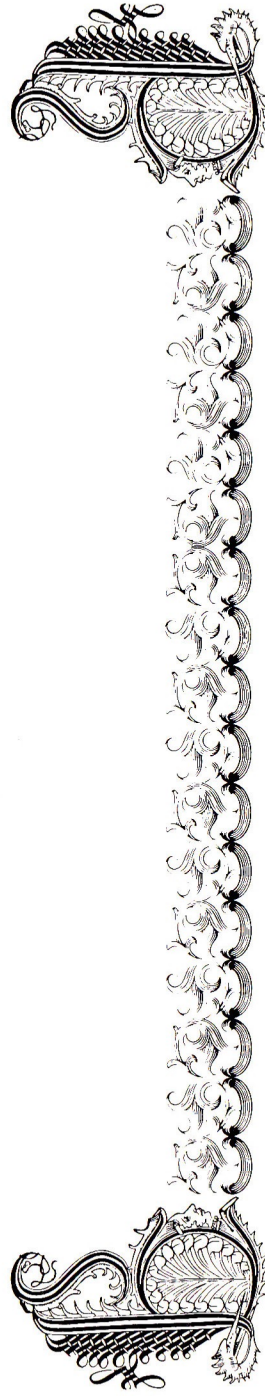
5周年という記念の年を通り越して、どう、みずからを叱咤してみたところで、ひとつの団体に疲れと澱みを否定しきれないのが現実というものであったと思う。そうした時に、はじめは一本ではない、種々の方向に向けられたエネルギーが生じて、そして或る日、急速に目標を発見して一路つき進む奔流となる、そんな、私自身も巻き込まれて目を眩ませられるような、そんな沸騰が、今年のはじめ、小田原男声合唱団にあった。

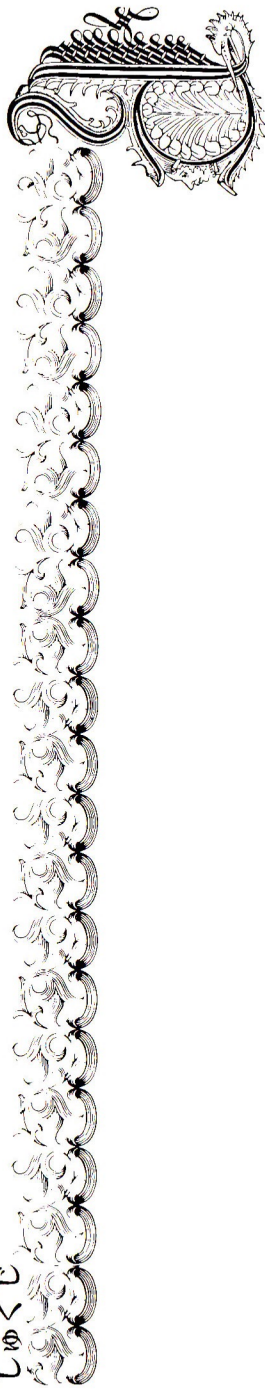
そして春も過ぎ、創立当初の無我夢中とはまた違った非常なる活気が、いま、団に漲っている。「やっぱり、小田原男声だ」と讃嘆する気持である。疲れを乗り越え、澱みを排したという実感がある。

さて、このとき指揮者に何ができるといえるのか。さる人が、「福永さんは、楽しいから音楽をやっているというより、みずから苦しい戦場に赴く…とといったふうに出でゆく」と言っていた。私は「そうか」と思うだけである。自分では、意気込んでいる自覚はない。

またひとつ、新しい坂を上ろうとしている今の小田原男声に、誰もが感じているひとつの空洞がある。—板橋君がいない— みんながそう感じているところに、まだ彼が生きているとも言えるが、きこえないべき一個の声なきこえない淋しさは、今年の演奏会が成功であっても、埋まらないだろう。

*Requiem Aeternam, Dona nobis Pacem.*





小田原市長 中 井 一 郎

小田原は芸術・文化活動の盛んな都市です。それ故に、市内には幾つかの合唱団体が結成されております。いずれの合唱団も、各団体それぞれ特色のある活動を活発に展開されています。その多くの合唱団の中にあってもっとも活発な活動を続け、実績を挙げられているのが、小田原男声合唱団であると思えます。結成以来、わずか5年有余月の短期間で、コンクール全国大会や関東大会で、数々の賞を掌中に取められたことが如実にそれら物語っております。

今回、第6回の定期演奏会を小田原市民会館で開催されますが、この演奏会が成功されますよう心からお祈りいたします。また、小田原男声合唱団が今後、市内の多くの合唱団の起動力となり、市内に合唱の輪がますます広がりますよう期待いたしましたして祝辞といたします。



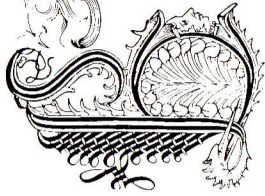
## 素敵な歌と、素敵な友へ

東海メーブルクファイアー 都 築 義 高

今夜、こうしてこの会場で小田原男声の演奏を聴くことの出来る皆様はなんと幸せなことでしょう。現在、日本でも好調な合唱団を聴けるのですから…。

小田原男声には信念があります。明確に統一された音楽的信念がいつも流れていて、とても気持の良い演奏が示されるのです。まがいのもの多い現代、速いこと、自己中心的なことが尊ばれるこの世で、男声合唱などは最もむづかしい事業の一つでしょう。だからこそ、小田原男声が益々隆盛をきわめてゆくことが、私達にとっても重要なのです。私達が失ってはならないものを守り守って、具現してゆく証しとして小田原男声の健在ぶりを喜びたいと思います。

そして、今夜のプログラムのバラエティに富んだ素晴らしき！男声合唱ファンの夢の一つではないでしょうか。これらの曲目を福永先生の棒で聴けるとは… もう一度云いましょう、大変幸せなことなのです。素敵な友と素敵な歌へ、大きな拍手を贈ります。

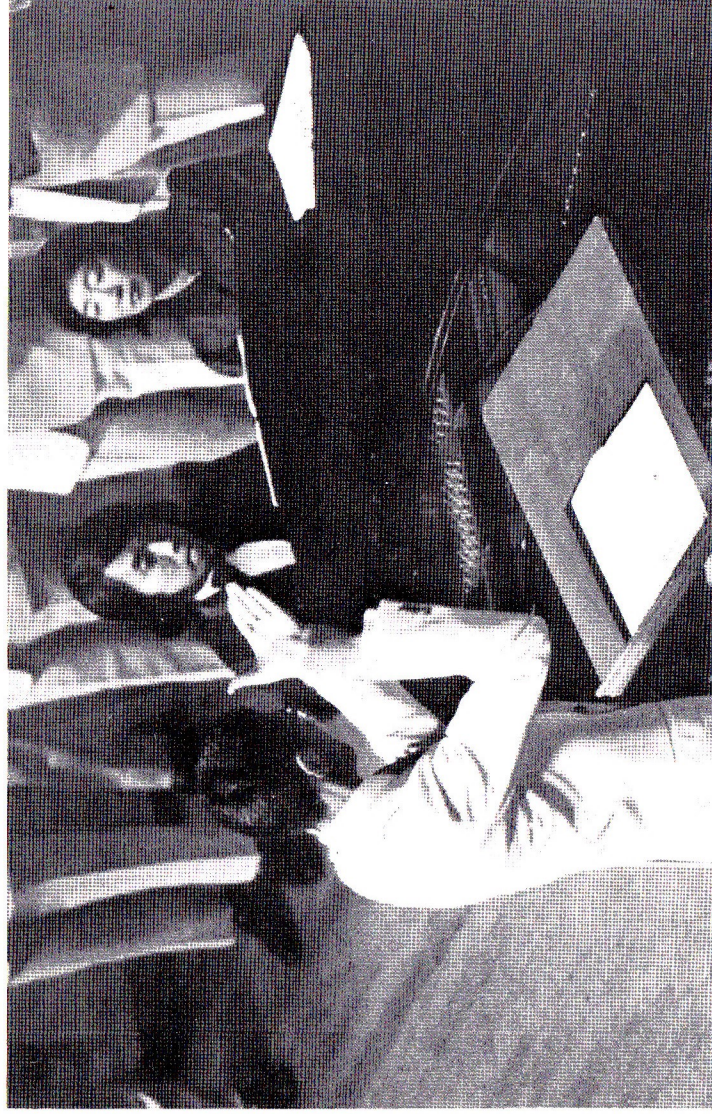
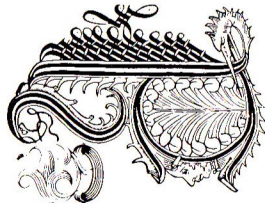
**小田原男声合唱団 常任指揮者 福永陽一郎**

合唱の楽しさを合唱することの歡びに変えたい、という氏の理念が単なる理想でなく立派に結実してきたものであることは、この数年来の氏の業績を寸見するだけでよくわかる。藤沢市民交響楽団や同志社大学などの指揮を常任する傍ら、小田原男声合唱団が結成するや間もなく全日本合唱コンクール全国大会で銅賞を得さしめ、法政大学アカデミー合唱団に昨年は同大会で2年連続の金賞の栄冠を、また広島崇徳高校にも金賞獲得の力となったことどもは、氏の理念が行動そのものであることの証しとなっている。

そうした氏の行動はまた、情熱的であり内省的でもある氏の誇り高い演奏家としての哲学に支えられている。氷山の一角として世に輝やかしく現われた氏の業績の裏には、内省的な情熱家としての日常不断の山のような大きな努力が隠されており、これこそ氏のプロフィールとして紹介されねばなるまい。

**略歴：**東京音楽学校(現芸大)本科ピアノ科出身。井口基成、豊増昇にピアノを、近衛秀麿に作曲・指揮・管弦楽法をM・グルリットにオペラ指揮法を師事。1956年から9年間藤原歌劇団の常任指揮者として数多くの公演をし、本邦初演の指揮も多く、わが国オペラ界における業績は内外に高く評価されている。

さらに二期会合唱団や日本合唱協会への出演、東京放送合唱団との演奏会や放送も数多い。特にアマチュア合唱への情熱は既述のとおりである。合唱用編曲も数百曲におよび、東芝レコードからも多くが出版されてきたことは周知の足跡である。こうした壮大な氏の合唱音楽への貢献が成功裡に終ってきたのも、氏の努力のほかにその人格の所産であることを決して見逃がせない。



ピアノ 久邇 之 宣

小田原男声合唱団とは第2回定演以来の演奏に協演し、毎年の合唱コンクールも担当。第26回の全国大会(岡山)で銅賞を得たときの薩の功勞者でもある。

**略歴：**昭和47年国立音楽大学ピアノ科卒業。クロイツァー豊子に師事。二期会研究生、東京室内歌劇場などでピアノリストをつとめ、現在では国立オペラ研修所のピアノリストでもある。さらに民音コンクール、毎日コンクールの優勝者の伴奏を、また昨年の合唱コンクール全国大会で法政大学アカデミー合唱団の金賞受賞の音色の中には氏のピアノの音があつた。もはや伴奏ピアノリストとしての地歩は固いが、昨春秋、藤沢市民交響楽団と、ベートーヴェンのピアノ協奏曲「皇帝」を演奏し、独奏者としてもすでに脚光を浴びていることは周知の通りである。

司会 NHKアナウンサー 後藤 美代子



現在、テレビ番組では「きょうの健康」と「劇場中継」、FM放送では「オペラワー」で、その美貌と美声をもって私達を楽しませてくれる人であることはご存知の通りである。

**略歴：**昭和28年、お茶の水女子大学文教育学部地理学科卒業。同年NHKに入局。この年に開局されたテレビとラジオの両番組を担当することになった。これまでに受け持った番組は報道、教育、教養、芸能と各方面にわたっている。知的な奥行きの深さを聴視者に感じさせるが、それだけではなくて、同時に気品とやさしい女らしさがいつもたたきだよっている。彼女の幅広いレパートリーはそうした個性が残し得た美しい足跡といえよう。



小田原男声合唱団 ヴォイストレーナー 大久保昭男

合唱は心の音楽である、という氏のモットーの下に、心のこもった音楽的な声が出せるようにと訓練されている団体は全国でも数多いが、松原混声合唱団、湘南市民コール、慶応ワグネル、同志社大学グリー、関西学院グリーなどすぐれた水準の団を育てている人である。楽しさと活気にあふれた独自の指導方法で団員を粒よりに引き立てていく氏の技術と人柄は、小田原男声合唱団にとっても無くてはならない存在である。

**略歴：**昭和28年、東京芸術大学音楽部声楽科を卒業。矢田部勁吉氏に師事。近衛秀麿指揮・青山杉作演出によるオペラ「カルメン」のモラレス役でデビュー。山田耕符自身の指揮するオペラ「黒船」ドヴォルザークのオペラ「ルサルカ」等にも出演。昭和34年にはドイツリートと日本歌曲による第1回リサイタルを開いて好評を博した。現在は東京芸術大学講師、昭和音楽短期大学助教授。

もうすぐ夏に夏空の美しい青さがやってくる季節に、小田原男声の定期演奏会が盛大に行なわれます。歌う人と聞いて下さる沢山の方々の美しい努力と協力によって迎えられる第六回の定演に心よりおめでとうと申し上げます。

毎日、次から次へと色々な仕事が生れて来ますが、それらで自分を一ぱいにして毎日を意味無く過ごしている程つまらないことはありません。どんなに忙しい自分でも、その少しの時間をさいてでも芸術に触れるということは時間的には短かくても、非常に大きな貴重なものが得られるのは確かです。今夜の演奏会もその貴い時がどれだけ美しく歌われることでしょう。

残念なことが一つあります。それは先日、山で板橋さんが逝ってしまっただこととです。今夜の演奏会はみんなが一生懸命歌うことでしょう。板橋さんはこの雑音と汚れで一ぱいの地上から遠く離れて、美しい天国にいるからよく歌が聞こえるだろうと思います。

『気が向いたら時々一緒に歌って下さい！』、『発声法の注意は忘れずにね！』

## プログラム

### I 古典イタリア歌曲集

- Amarilli, mia bella  
「アマリリ 麗し」 .....Giulio Caccini
- Già il sole dal Gange  
「太陽は昇りぬ ガンジスより」 .....Alessandro Scarlatti
- Ombra mai fu (Largo)  
「永遠に茂る木陰よ」 .....Georg F. Händel
- O del mio dolce ardor  
「お、やさしい恋人よ」 .....Christoph W. Gluck
- Chi vuol la zingarella  
「ジプシイ娘を呼ぶのは誰？」 .....Giovanni Paisiello
- Piacer d'amor  
「愛のよろこび」 .....Giovanni Martini

### II メンデルズゾーン男声合唱曲集

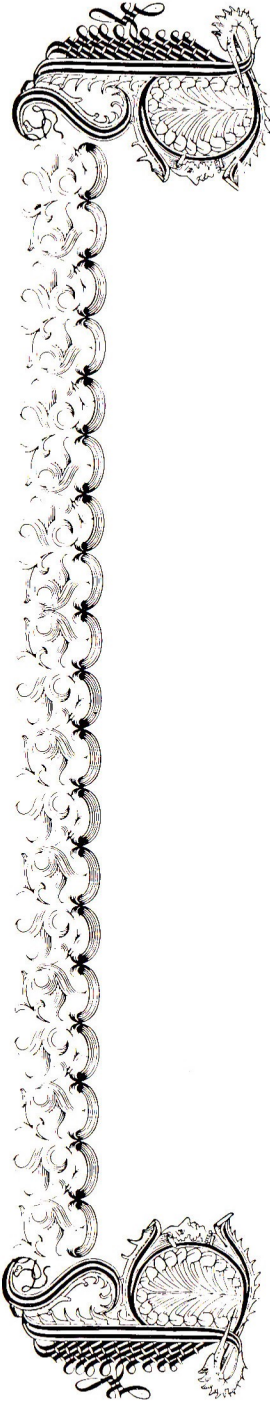
- Türkisches Schenkenlied  
「トルコの酒のみ唄」 .....作品50の1
- Der Jäger Abschied  
「狩人の別れの歌」 .....作品50の2
- Wasserfahrt  
「舟行」 .....作品50の4
- Der frohe Wandersmann  
「愉しき旅人」 .....作品75の1

### III “岬の墓”

- .....  
堀田善衛 詩  
團伊玖磨 曲  
福永陽一郎 編曲

—— 休 ——

憩 ——

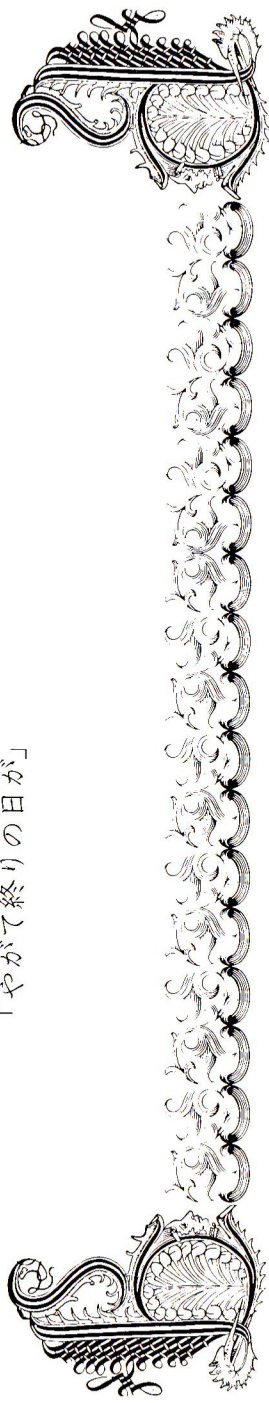


#### IV 北原白秋の詩集より

- からたちの花  
…………… 山田耕筰 作曲  
林 雄一郎 編曲
- この道  
…………… 山田耕筰 作曲  
福永陽一郎 編曲
- かやの木山  
…………… 山田耕筰 作曲  
福永陽一郎 編曲
- ちんちんちどり  
…………… 近衛秀麿 作曲  
林 雄一郎 編曲
- あわて床屋  
…………… 山田耕筰 作曲  
福永陽一郎 編曲

#### V 黒人靈歌集

- Go down Moses  
「行けよ モーゼ」
- Let us break bread together  
「共にパンを」
- This ol' hammer!  
「古いハンマー」
- Mary's boy child Jesus Christ  
「マリアの小さな男の子」
- Soon-a will be done  
「やがて終りの日が」



## 古典イタリア歌曲集

声楽をまなぶ人で、レッスンにおいて古典イタリア歌曲を通らなかつた人はおそらく皆無である。発声の基礎の母音歌唱——コンコーネなど——などの学習がある程度進むと、応用問題として母音の発声と歌詞の発音とフレーズの形成という異なった作業を一致させる技術の練習教材として、これらの歌曲が使用されるからである。更に、素材ではあっても比類のない美しさにあふれており、また純粋な様式感を保っている古典歌曲は、ヨーロッパ音楽の原点に触れるという意味でも利点の多い教材なのである。

この古典イタリア歌曲による男声合唱曲集は、アマチュア合唱団においても重要視されている「正しい発声」の声のフォームをつくるための課題曲として、又、レガート唱法や腹筋によるアタックの練習曲として利用されるために編曲されたものである。実際には、昭和38年、第12回東西四大学合唱演奏会における同志社グリークラブのステージのための編曲であったから、曲のえらび方も華麗さをねらったものとなり、古めかしさや退屈を感じさせないように、多少の粉飾をほどこされている。

### ●Amarilli, mia bella 『アマリリ 麗し』

ジュリオ・カッチーニは推定で1546年の生れというから、この曲集にあつめられた作曲者の中では、いちばん古い年代の人である。フイレンツェのメデイチ家のリュート弾と歌手を兼ね、名声があつた。また彼はヤゴボ・ペーリと共にオペラの創始者としても知られている。曲はカッチーニの作品の中で最も愛されてきたマドリガーレで、憂愁をおびた旋律と歌詞の気分の見事な一致は、オペラを創始し、歌唱様式の理論を確立した人だけに、高度な完成度を見せている。

### ●Già il sole dal Gange 『太陽は昇りぬ ガンジスより』

作曲者、アレッサンドロ・スカルッティはシシリー島のパレルモに1660年に生れた人で、17世紀から18世紀にかけての重要な音楽家を生んだ名門の出である。ナポリで成功し、百曲以上のオペラを作曲上演した。

さわやかな日の出の気分をうまくあかわらしたこの曲は、初演当時たいへんな好評をほくしたカンツォネッタである。もつとも、この対法的に書かれた伴奏型は、古典イタリア歌曲の集大成になって完成したアレッサンドロ・バリヅッティの編曲である。

### ●Ombra mai fu (Largo) 『永遠に茂る木陰よ』

バッハとともに、バロック音楽後期の最大の作曲家であるゲオルグ・フリードリッヒ・ヘンデルは、「メサイア」をはじめとするオラトリオやコンチエルト・グロツソその他の管楽々器楽の作品が現代でもよく知られてきた。またオペラでも成功した人であった。この「ラールゴ」という曲は、ヘンデルの「セルセ」というオペラの中の Aria で、Aria の部分の優美で壮大なメロディが独立して有名になり、そのテンポ指定の語が題名になってしまったものである。

### ●O del mio dolce ardor 『お、やさしい恋人よ』( )

クリストフ・ヴィリバルト・グルックは、18世紀最大のオペラ作曲家でドイツ生れだが、ミラノ、パリ、ヴェーンで活動した国際人であった。ナポリ派の保守的なオペラに反発し、自然主義に共鳴して「パリデとエレナ」というオペラを書いた。この Aria はそのオペラの中の有名な部分で、現在までに種々雑多な版が伝わっている。

### ●Chi vuol la zingarella 『ジプシイ娘を呼ぶのは誰?』

“イタリアのモーツァルト”といわれたジョヴァンニ・バイジェリは、ナポリ楽派のオペラ作曲家で、ベル・カント唱法を定着させた人として知られている。この曲は、もつとも古い形のカンツォーネで、ジプシイ女のカルタ占いを、演技が見えてくるような鮮やかな手法で表現している。

### ●Piacer d'amor 『愛のよろこび』

この曲はジョヴァンニ・マルティニーの作曲であり、長い間、同名のジョヴァンニ・バッティスタ・マルティニーの作品と信じられてきたが、実は本名をヨハン・エーギディウス・ミュヴァアルツェンコンツプといい、マルティニー・イル・テデスコ(ドイツのマルティニー)と呼ばれたこともある人の作であるという。パリで成功した作曲家であり、この曲ももとはフランス語の歌詞をもっている。題名のせいと、以前からよく結婚式でうたわれたという話であるが、内容は愛のはかなさをうたったもので、全然さわわしくない。

## メンデルスゾーン男声合唱曲集

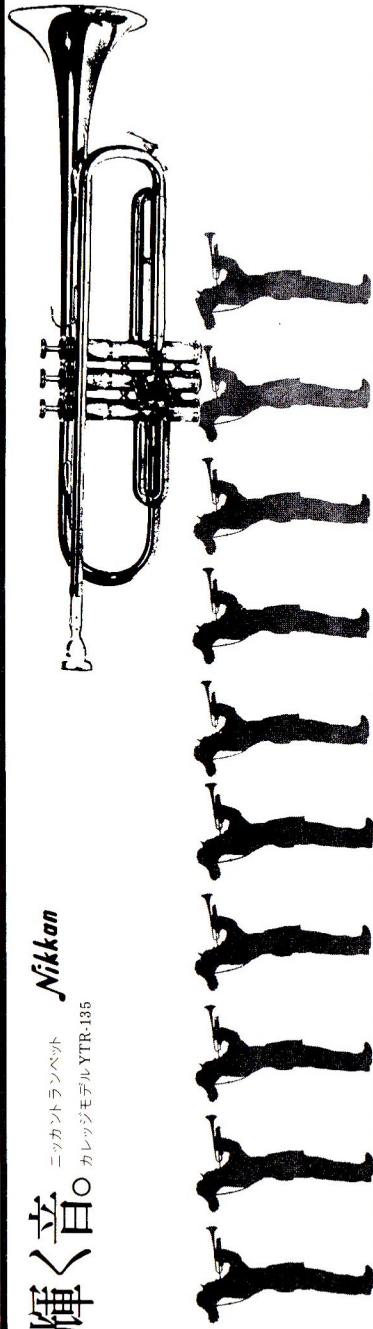
フェリックス・メンデルスゾーン・バルトルディ(1809～1847年)は、「スコットランド」とか「イタリア」と名の附いた交響曲、ホ短調ウ

輝く音

ニッカントランペット

Nikkan

カレッジモデル YTR-135





置しながら、絶対の真理を見つめる者のきびしさを、墓、船、水平線、そして赤い花というふうに具象化し、永遠の問いかけを提出したものである。團伊玖磨は、これを交響曲風とも言えるようなペースペクティブでとらえ、15分ばかりの演奏時間をもった大きな広がりを持つ一曲に仕上げている。雄大なうねりのような線の主題が、全体をつらぬく中心的な楽想として終始あらわれるが、墓、船、赤い花などは、それぞれ固有のモチーフによって支えられており、言葉の具体性と照応している。水平線の彼方という“意味”は、やや平凡な上昇音階の利用で処理されているもの足りないところに1カ所しかないで、演奏の設計を立てるときに大きな視野を持たなければならぬこと

が、ものごとを困難にする。それはまた、全体がいつもやかなテンポで流れているため、曲想の小さな部分に光と影、活気と停滞、昂揚と平静といった細工をほどこす必要と、実際問題として逆行する表情を同時にあわせ持たせざるを得ない。そのうえこの曲は、指揮者や合唱団員を音楽の流れの強い勢いに呑みこむところがあるが、冷静な演奏を拒絶するところもあるから、なかなかステージでの成功が獲得しにくい。それだけに、取り組み甲斐のある合唱曲ということもできる。

團伊玖磨は、私個人にとっても比較的よく知っている作曲家といってよい人である。上野の音楽学校で、二年上級生として知りありつて以来、30年以上のつきあいである。團と同級生だった若の大中恩を、長いのちまで知らなかったのと思わせると、奇妙な感じがする。團のオペラの第一作であり不滅の傑作である「夕鶴」に関して言うと、私は、まず山本安英による演劇としての上演に團が音楽を書いたとき、すでに演奏者として関係しており、オペラの初演のときは、つぶさに制作過程から参画して、楽譜については、手書きのスケッチから出版にいたるまでのすべてを目にし、オーケストレーションの初版から現行版までの移行もジカに体験したのである。こうした作品への接しかたが、一人の作曲家の作風への理解に、しばしば役に立つものと言ってもよいのではないが。

「岬の墓」は、混声合唱曲としてきわめて高度に完成した作品ではあるけれども、同時に内容が確保している精神は極めて男性的なもので、詩にも音楽にも、どこにも女性的なところがない。外面的な表情にあらわれる優しさにしても、弱々としたものではなく、線の太さのうえにあらわれる優しさである。語られる言葉はあくまで男性のものである。この曲が混声合唱曲としてつくられたのは、合唱音楽の通常の形態をとったというにすぎないと思われる。

1971年、早稲田大学グリークラブを指揮することになり、学生諸君の要望で「岬の墓」の男声合唱用の編曲を依頼されたとき、私は全然躊躇しなかった。この曲はまるで当然のように男声合唱曲になった。

休

憩

北原白秋詩集

昨年、小田原男声の第5回定期演奏会での童謡唱歌によるメドレー「子供の四季」が、たいへんに好評だったというので、今度も、人々が良く知っている日本の歌を男声合唱に編曲したものをプログラムに入れようではないか、ということになった。

普通なら作曲家別に選曲するのが自然であると思うが、それでは少し工夫が足りないようでもあり、また今後も同様の企画が必然であろうということもあって、詩人別というのを考えた。作曲者が種々であったほうが、曲の色にヴァリエーションが出るだろうと思ったのである。もともと今回は北原白秋ということで、白秋の詩による名曲ということで、山田耕筰にかたよってしまふ結果になり、あまり意味のある答えが出なかった。今後、野口雨情、西條八十と進んでゆけば、企画の意図も生きてくるであろう。

うたわれる曲は、どれも良く知られたものばかりであるから、解説の必要もないであろう。「ちんちん千鳥」だけが近衛秀麿作曲である。「ちんちん千鳥」には山田耕筰の曲もあるのだが、こればかりは近衛秀麿の存在を誇っている。近衛秀麿は、日本のオペラ指揮界の先人として、大家であったし、ユニークな芸術は、いまなお賞讃する人が多いが、作曲家としてはまるでダメな人である。結局、「ちんちん千鳥」という小品の一曲が残っているだけである。晩年には、みずから作曲家ではないと言いつついた。

今度の曲は、いずれも藤原義江によって創唱され、広く知れわたった曲ばかりである。私＝福永も、今度の曲を藤原義江がうたうのを、何度も伴奏レコードには、その創唱時代の歌唱が、作曲者の伴奏で収録されている。私＝福永も、今度の曲を藤原義江がうたうのを、何度も伴奏したことがある。私の本当の意味での音楽上の育ての親は、近衛秀麿と藤原義江の二人であるが、今度の「北原白秋詩集」は、はからずも私の胸ををしめつける思い出の歌曲集となった。同様に、うたう人、きいて下さる人々にとって、何らかの意味で思い出をつむぎ、甘い悲しみをさそい、心を慰めるステージであればよいと願っている。

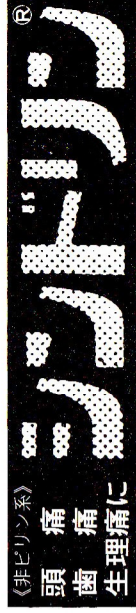
小田原男声合唱団  
第六回定期演奏会

胃もたいせつ 腸もたいせつ…

食べすぎ  
飲みすぎに

新三共胃腸薬

おめでどうぞいませ。



三共株式会社

東京都中央区日本橋本町1





## 小田原男声合唱団六年のあゆみ

小田原男声合唱団 事務局長 井上忠彦



昭和44年12月、男声合唱団を創ろうではないかと、はじめての会合がもたれた時から計算すれば実に八年という事になる。しかし小田原での文化運動の下地は、戦後着実に多くの人々の努力で暖められて来た事を忘れてはならない。シグナス合唱団の30年をはじめ小田原市民合唱団、小田原男声合唱団(のちの小田原混声合唱団)、木曜合唱団、小田原少年少女合唱隊、コーラルユニオン、南エコー、二宮でのあがつま合唱団、そして小田原フィルハーモニー、小田原吹奏楽研究会、小田原労音。このような文化活動の中から小田原男声合唱団が発足した。

発足は昭和46年11月2日、城内小学校講堂で産声をあげた。最初の練習曲目は“ユピデール”、“はるかな友に”だった。福永先生が毎回練習に見えるというのには本当なかと、再三にわたって念を押された事を覚えている。今から考えれば寄り合い世帯であるし、喉自慢が集まった事もあるが、ハーモニーも何もあつたものではなかった事と思つた。福永先生の棒のもと、発足の感激を味わった。第一回演奏会がまさかその半年後に開かれるとは思つてもいなかつたのだが、翌年5月16日“ゲノアのミサ”、“碑”、“ポピュラー”、“雨”、“日本民謡”とヴァリエーションに富んだプログラムで行なわれ40人全員がステージに上った。(その時のメンバーは現在24人になっている。)

それは、関東合唱コンクールで金賞受賞、わずか一年で全国コンクール出場、翌年には全国で銅賞を受賞した。しかしコンクールではその時を頂点に、メンバーのコンクールの不足が目立ち、ついに昨年は県のコンクールで二位に甘んじた。その間、他の活動では藤沢での“アルトラブソディール”、“ヴェルディのレクイエム”、東京では“知られざる名曲演奏会”、各地での年末、第九に対する取り組みと参加、“雨”のレコーディング、JAMCA(日本男声合唱協会)の名古屋・広島演奏会に出演。昨年は五周年記念事業として、新星日本交響楽団の共演を得て“ケルビーニのレクイエム”を演奏、六年の歳月はいろいろな体験を吾々にもたらせた。また曲目としては、第三回定演にシチュエーションを取り上げ、ドイツ語を。第四回定演ではニグロでリズムを、そして今年には発声の基本をとという事でイタリア古典に取り組み、イタリア語の勉強をする事になってしまった。

第一回から今回の第六回まで聴かれた方は、発声の向上をあげられると思うが、大久保先生の発声指導が次第に行きわたつた成果である事は言うまでもない。ピアノは第一回が新井先生、第二回からは久邇先生とめぐまれ、コンクールでは合唱よりにピアノがほめられるという事まであった。レパートリー作りとしては“月光とピエロ”、“枯木と太陽の歌”、“雨”をはじめとする日本の男声合唱の古典といわれるものを中心に組みつつある。

地域の音楽活動に対する参加としては、五周年記念事業での、第九演奏会は藤沢市民交響楽団の協力のもと、地域の合唱団の出演によって演奏された。これは今後の小田原での音楽活動の方向を指唆するものとして、特筆すべき事だろう。またJAMCAでは名古屋に次ぐ、広島での演奏会で、全日本の男声合唱の力強さと幅広さを感じ、次の弘前での演奏会に大きな期待を持たせてくれた。そしてこれが今年秋の東海メールクワイヤーズとのジョイント・コンサートに発展したがどんな花が咲くか楽しみだ。

組織的な面では、創立当初の興石団長の努力を引きついで青野団長のきめ細かな指導力と、長谷川運営委員長の行動力は、五周年の大きな成果になって現われた。今年は大塚団長に変わり、技術面の向上を中心に若い活動力で10周年に向かつてスタートを開始した。以上の様に小田原男声は創立当初からの福永先生のすぐれた音楽性と人間性を中心に励んできたが、吾々の向上はもとより、地域の音楽団体とのつながりを深め、合唱音楽の追求とその楽しさを深めていきたい。

★☆☆☆ 夜景でビアを  
★ ばんばん飲もう!

第6回定演もがんばって下さい

★キーボトル原価販売  
★エレクトーン生演奏

ビアガーデン  
ばんばん

ホタダンの溜まり場



小田原・お堀端通り  
ナックビル8階  
『味の街』

●営業時間

午前11時30分～  
午後10時

☎(0465)

22-5693

●ナックビル屋上 営業時間 / 平日 4時～10時  
土・日 1時～10時

1977年度 オダダカンカレンダー

- 1 16日 JAMCA 広島演奏会 (郵便貯金ホール)
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6 5日 第26回湘南合唱祭 (相模原市民会館)  
〈練習強化月間〉
- 7 2日 第6回 定期演奏会 (小田原市民会館)
- 8 27~28日 夏季合宿 (箱根仙石原) 及び仙石原演奏会
- 9 11日 南エコー・コーラスの演奏会に賛助出演 (南足柄市)
- 10 9日 小田原市民合唱祭
- 11 6日 東海メーブル・クワイヤーとのジョイントコンサート (名古屋市)  
13日 神奈川県芸術祭参加、推薦団体演奏会出場 (県音楽堂)
- 12
- 1 '78年  
21日 小田原市民劇場主催・小田原男声合唱団演奏会 (小田原市民会館)

● これまでの演奏曲目

1972

- ♣ グノー/「ミサ第2番」より…キリエ, グローリア, アニュス・デイ ♣ 多田武彦 / 男声合唱組曲「雨」 ♠ 森脇憲三 / 男声合唱のためのレクイエム「碑」 ♥ ポピュラー・ヒット・ベストアルバム / ある愛の詩, コンドルは飛んで行く, イエスタデイ, ア・ロービング, 雨に濡れても
- ♣ 日本民謡集 / ソーラン節, 南部牛追い唄, 最上川舟唄, おてもやん ♣ 清水脩 / 男声合唱組曲「青い照明」
- ♣ グリークアラブ・アルバムより

1973

- ♣ タベの歌 / なつかしき愛の歌, タヤけ小やけ, オーラ ; リー, 砂山, 植生の宿, ♣ 南弘明 / 男声合唱のための組曲「蛙の歌」 ♠ チャイコフスキークィー・アルバム / 聖史曲, トロイカ, あけぼの歌 (交響曲第5番より), ただあこがれを知る人のみ ♥ 清水脩 / 男声合唱組曲「月光とピエロ」
- ♣ ブラームス/「アルト・ラプソディ」 ♣ ベートーヴェン / 交響曲第9番「合唱」

1974

- ♣ グノー/「聖チェリアのミサ」より, キリエ, グローリア, クレド ♣ 多田武彦 / 男声合唱組曲「柳河風俗詩」
- ♣ シーシャンティより / 出帆だ出帆だ, スコットランドの低地, 漂流, シェナンドア ♥ 石井歎 / 男声合唱組曲「枯木と太陽の歌」 ♠ 清水脩 / 「智恵子抄巻末のうた六首」
- ♣ プルックナー / モテット ♠ 森の歌声 ♥ 佐々木伸尚 / 夜の歌 ♠ シューマン / 流浪の民

1975

- ♣ 高田三郎 / 合唱組曲「水のいのち」 ♣ シューベルト男声合唱曲集 / 愛, 夜, セレナード, 夜のうぐいす
- ♣ 黒人霊歌集 / 深い河, 静かに揺れよなつかしの戦車, 誰も知らない私の悩み, リッスントワラム, リトゥルイノセントラム ♥ ヴェルディ / 鎮魂ミサ曲 ♠ グリークアラブアルバムより / ふるさと, 婆やお家, 水夫のセレナードほか

1976

- ♣ ケルビーニ「鎮魂ミサ曲第2番」 ♣ 福永陽一郎編 / 「子供四季」 ♠ オペラ合唱曲集より / ウェーバー「狩人の合唱」ワーグナー「巡礼の合唱」, グノー「兵士の合唱」
- ♥ シュトラウス / 円舞曲「酒・女・唄」 ♠ 磯部徹 / ふるさと, ねずみ

1977 (JAMCAにて)

- ♣ 團伊玖磨 (福永陽一郎編) / 「岬の墓」

予告

第7回 定期演奏会

- とき 昭和53年7月8日(出)
- ところ 小田原市民会館大ホール
- ☆ 曲目 ① デュオオーバのミサ曲 ② プラームスのジブシーの歌 ③ 海の構図 ④ ミュージカルより ⑤ その他 親しみのもてるもの… (以上5ステージ)

団員紹介

トップテナー T1

井大 沼塚野藤藤口木藤下村谷井島永田  
 幸夫 司信男 司治昭 巖幸次 雄隆 修実 晃  
 校校 鉄ス校校 ムム校校 校場 ムム生局  
 学学 ク学学 ルル学高学 験ルル大  
 小小 ゼロ小小 フフ小野小試フフ院  
 水磯 士内台士士子野井芸士士学  
 花大 国富城桜富富芦秦桜園富富国薬  
 塚原原木原原柄原野北柄原原柄海原  
 平小小厚小伊南小秦山南小南熱小  
 原原 田勢足田 秦山南小南熱小

セカンドテナー T2

青野野橋野家藤村島々藤原井井本  
 夫純三一明雄明治純 熹一士史治生之正茂  
 校校 ム校 ム校生校 トム校業 ム校  
 学学 ル学ル学大 学ンル学 業 ム校  
 小フ小フ小理小台ベフ小国士フイ  
 上雷二雷川東鶴関雷香三雷大日本  
 野原宮柄北野川塚柄宮柄宮野原倉塚野  
 秦小二南山秦寒平南二南南二秦小  
 原原 足山秦寒平南二南南二秦小

役員

団副 長長 長長 計 報業外  
 運部局 長長 計 報業外  
 事務局 長長 計 報業外  
 会 計 報業外  
 渉

バリトン B1

利田東崎川藤沢木上藤村 宮田本  
 裕隆清敦卓正 秀 賢興一 治益和  
 之純邦吉男昭一 茂惠三毅雄二弘夫  
 熱南小小 鎌平小小小松小藤大東小  
 海柄原原倉塚原原田原沢磯京原  
 多富温山富花昭野富学鉄井教東岡  
 賀士泉王士水 和 野外教育センタ  
 校ム校校 ム校大 一ム生業器者芝校  
 学ル学学学 ル学音 一ム生業器者芝校



故板橋正彦氏

●1977年5月3日  
 北橋高にて遭難、不  
 婦の人となる...

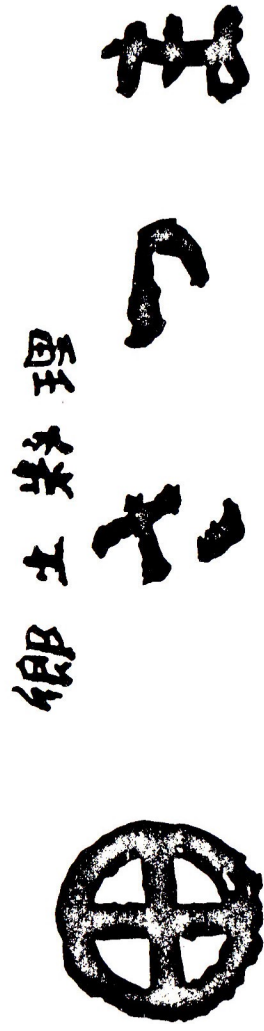
バス B2

阿井内神日坂下杉瀬土中野山吉渡  
 年忠恭一 部宗英 俊博吉秀正誠  
 男彦幸豊 賜夫孝樹元男之昭人彦之  
 塚原野柄塚原原原塚塚宮浜成原原  
 平小秦南平小小平小小平二横開小小  
 豊井(株)国医富富仙学関関学工大城  
 田上立療養所職員 師 ムム校生トト生所料校  
 校器所 員 師 ムム校生トト生所料校

※ 休 団 員

掘奥可馬太尾次三亀久桑坪久  
 T1 T2 B1 B2  
 郎夫夫晃史茂男治三吉孝  
 清一 晃男勝也章一男一雄昌雄  
 山知場田登田川井保原谷松  
 源一 幸 秋 幸正 敏俊  
 福大松吉福柏阿坂石岩下  
 陽正和 靖秀年新泰敦  
 塚本 田井木部口橋崎 沢  
 T1 T2 B1 B2 T1 T2 B1 B2

オダダンの心のふるさと



お茶漬・おむすび

(九州出身の方ぜひ一度お越し下さい)

●小田原駅前 北本ビル (電)23-0288

手づくりの良さ



アポロ

ピアノ  
ホルガム

特約店  
**井上楽器**  
小田原市栄町1-13-36 (お堀端通り)  
☎ 0465 24-0515 (代)



東洋ピアノ製造株式会社

浜松市船越町34番25号 TEL (浜松) 61-0107(代)  
東京事務所 TEL 03-811-0135

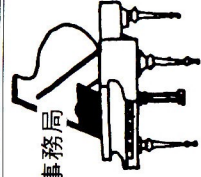
若さあふれる男の魅力……!  
小田原男声合唱団を育てましょう。



わかもと製薬株式会社

本社 / 東京都中央区日本橋室町1-8 大阪・名古屋・福岡・札幌

小田原男声合唱団事務局



井上楽器

小田原市栄町1-13-36 (お堀端通り)  
☎046524-0515 (代)